

みずほCustomer Desk Report 2020/07/07号 (As of 2020/07/06)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	107.66
TKY 9:00AM	107.60	1.1250	121.00	1.2476	0.6949
SYD-NY High	107.77	1.1345	121.96	1.2520	0.6987
SYD-NY Low	107.26	1.1245	120.97	1.2470	0.6925
NY 5:00 PM	107.39	1.1310	121.46	1.2488	0.6974

NY DOW	26,287.03	459.67	日本2年債	-0.140	0.00bp
NASDAQ	10,433.65	226.02	日本10年債	0.040	1.85bp
S&P	3,179.72	49.71	米国2年債	0.158	0.40bp
日経平均	22,714.44	407.96	米国5年債	0.300	0.64bp
TOPIX	1,577.15	24.82	米国10年債	0.676	0.74bp
シコ日経先物	22,680.00	320.00	独10年債	-0.4340	0.05bp
ロンドンFT	6,285.94	128.64	英10年債	0.2000	1.20bp
DAX	12,733.45	205.27	豪10年債	0.9360	2.20bp
ハンセン指数	26,339.16	966.04	USDJPY 1M Vol	5.43	0.10%
上海総合	3,332.88	180.07	USDJPY 3M Vol	6.06	0.06%
NY金	1,793.50	3.50	USDJPY 6M Vol	7.09	0.01%
WTI	40.63	▲ 0.02	USDJPY 1M 25RR	-0.55	Yen Call Over
CRB指数	140.90	0.30	EURJPY 3M Vol	7.58	0.10%
ドルインデックス	96.73	▲ 0.45	EURJPY 6M Vol	8.10	0.07%

東京	東京時間のドル円は107.60レベルでオープン後、日経平均株価が徐々に上げ幅を広げるとドル円も底堅く推移。仲値前後では107.60台半ばであったが、その後も日経平均株価が堅調な推移をする中、107.70台まで上昇。しかし、同水準では上値が重く、午後は買い一服となる中、107.70を挟んだ揉み合い推移となり、107.69レベルで海外に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は107.69レベルでオープンし、欧州主要株指数や米株価先物が堅調に推移する中でドル売りが先行し、午前中は一本調子で107.50円まで下げる展開となった。その後、107.50でこう着状態となり、107.52レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.2498レベルでオープン。全般的なドル安を受け、堅調推移。一時1.2518まで上昇する局面もあったが、1.2511レベルでNYに渡った。(ロンドン・トルフリー 00531 444 179 マクルヒル)
ニューヨーク	中国紙が今後株式市場が強気相場に入るとの記事を出したとの報道を受け中国株が上昇し、海外市場でリスク志向から円売りが強まり、107.77まで戻したドル円は、その後は米国でのコロナ感染者数が増えていることもありドル売りが強まり、107.50まで反落し、107.52レベルでNYオープン。朝方はリスク志向のドル売りが継続したことから107.45まで反落するが、10時に発表の米6月ISM非製造業景況指数が、経済の再開を受け57.1と予想を上回り、前回からも大きく改善し、18業種中14業種で改善したことからドルが買い戻され、107.59まで戻す。しかしリスク志向からドル売りが優勢となり、107.45まで反落する。午後は、特段ニュースは見当たらない中、やや円買いが優勢となり107.26まで下落するが、株式市場が大幅高で引ける展開に円売りが持ち込まれ107.39レベルでクロスした。一方、海外市場でリスク志向からドル売りが強まり、1.1320まで戻したユーロドルは1.1319レベルでNYオープン。朝方は、海外市場の流れを引き継ぎ、1.1345まで戻すが、ISM非製造業景況指数結果を受けたドル買い戻しに1.1303まで反落する。午後は狭いレンジでの推移が続き、1.1310レベルでクロスした。(NY井上)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 小野崎・木村 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

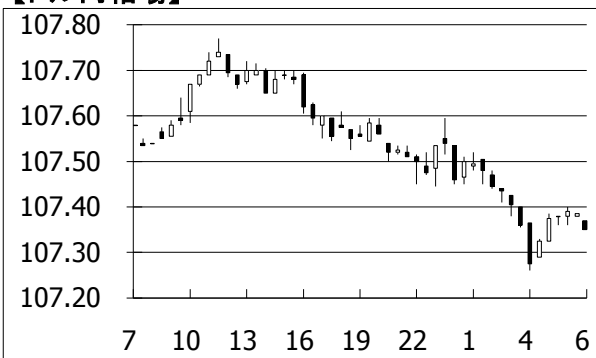
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
7月6日	15:00	独 製造業受注(前月比/前年比)	5月 10.4%/-29.3%	15.4%/-36.6%
	18:00	欧 小売売上高(前月比/前年比)	5月 17.8%/-5.1%	15.0%/-6.5%
	22:45	米 マークイットサービス業/総合PMI(確報)	6月 47.9/47.9	46.9/-
	23:00	米 ISM製造業景況指数	6月 57.1	50.2

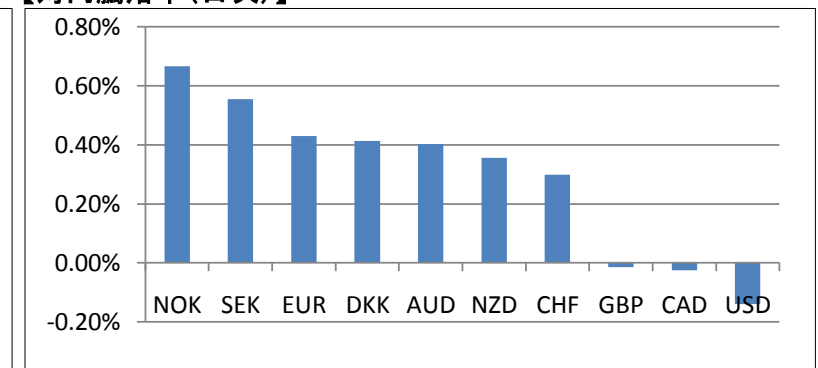
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
7月7日	13:30	豪 RBAキャッシュレート	- 0.3%	0.3%
	15:00	独 鉱工業生産(前月比/前年比)	5月 11.1%/-16.9%	-17.9%/25.3%
7月8日	02:00	米 クオールズFRB副議長 講演	-	

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 懸念すべきネガティブヘッドライン

7月1日に約3週間ぶりとなる108円台を現示したものの、高値108.16を付けたあとすぐに失速し、その後は107円台での推移が続いている。先月の本欄において『110円台を目指そうかという局面も見られたドル円相場だが、このドル円の動向にやや違和感を覚えている。もちろん、株式市場の回復や米経済指標の予想外の改善、米金利の上昇などドル円上昇の理由を挙げることは出来る。しかし、これらの回復はホンモノであろうか?』と述べたが、直近のドル円推移を見る限り、やはりそれらの回復はホンモノではなく一時的だったと言えよう。先週発表された米6月ISM製造業指数や米6月雇用統計などは軒並み予想比強い結果となっているが、為替相場の反応は限定的。新型コロナウイルス感染拡大第二波への懸念が色濃く、経済への不透明感が続いており、将来への不安が拭えない中で、ポジティブ材料への反応は限られてくるものと考えている。

国内でも東京を中心に新型コロナウイルスへの感染者数は増加の一途をたどっているが、米国でも5万人超の感染者が報告され1日あたりの感染者数が過去最多の水準となっている。感染拡大への対応から多くの州で経済活動の再開を停止し始めるなど、第二波による先行きへの不安感は現れ始めているが、これらの影響を経済指標で確認出来るのは来月以降であろう。月初からみられている米経済指標の好調さには第二波の影響は織り込まれていないものと思われ、今後、米経済の弱さが露呈する可能性は否定できない。例えば、米雇用統計は12日を含む週の統計であるが米国で感染者数が再増加したのは、6月12日の週以降であり、先週発表の米雇用統計結果には反映しきれていない可能性が高い。

また、新型コロナウイルスのみでなく、先週には全人代が香港国家安全維持法案を可決したのに対し米上院は中国の制裁を目的に香港自治法案を可決させるなど米中をめぐる対立激化も懸念され始めている。ポジティブ材料への反応は限られる中で、燃るリスクを勘案するとネガティブヘッドラインへの反応に警戒し下値に備えるべき状況であると考えている。(小野崎順基)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	牛島	山岸	田坂	尾身	上野
ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア
山口	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	小林
ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア	ベア	ベア	ベア	ベア

ブル	ベア
6	14